

第17回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時／場所 令和3年12月18日（土）13：00～14：30／対面及びオンラインの併用
出席者 委員 12名（別添 熊野川懇談会委員名簿 参照）、河川管理者等 7名

紀南河川国道事務所より、令和3年12月15日に公表した「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」の概要、関係住民の意見聴取方法について説明し、意見交換を行った。

1. 「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について

「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について、本文の目次構成に沿って、(1章)流域および河川の概要、(2章)河川整備の現状と課題、(3章)河川整備計画の目標に関する事項、(4章)河川整備の実施に関する事項、(5章)その他河川整備を総合的に行うために必要な事項を説明し、意見交換を行った。

2. 関係住民の意見聴取方法について

関係住民意見の聴取は、流域3県における公聴会、書面、及びインターネットを用いたパブリックコメントにより実施することが確認された。

3. その他

第17回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

以上

◆委員からの主な意見（■委員からの意見）

<「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について>

- P15で昭和34年の伊勢湾台風で19,000m³/sの出水があったことから、19,000m³/sで計画をたてたが、50年たった平成16年の洪水が11,000m³/sで洪水被害が発生している。それに対し、P14で「施設では守り切れない大洪水は必ず発生する」といった突き放した書き方となっている。今度、24,000m³/sにして30年後に24,000m³/sが流れているのだろうか。目指しているものと現実との乖離を説明したほうがよい。
- P64で「相賀において22,000m³/sの流量を安全に流下させる」と記載がある箇所について、今どこにいて、30年先に22,000m³/s流せるように、これから計画に向かって進めていくというふうに書いていただくと分かりやすい。その先に、22,000m³/sから23,000m³/s、残りの1,000m³/sをどうするのかは流域治水ともあるので、アイデアがあるなら書いてほしい。
- ダムについて、基本方針で24,000m³/sを目標にしている、河道で23,000m³/s、残りの1,000m³/sはダム等で対応するということだが、ここの記述では22,000m³/sまでを河道で流して、24,000m³/sに対してはダムで対応するというので、2,000m³/sはダムで何かするというふうに考えているということなのか。このあたりの基本方針との数値のずれがよく分からないところで、そこを分かりやすく書いたほうがよい。あわせて、ダムの計画としては、どれだけの量を事前放流で見ている、どれだけの量を施設改造等によって将来的に考えていけるかということまで計画としてあるなら記載すると分かりやすいと思う。
- P74にデジタルトランスフォーメーションという言葉がでてくるが、情報の一元化をして何がしたいのかを書くべきである。
- H23～R元年のグラフで堆積傾向である4.4km付近が、その前のH20～H23年では侵食傾向にある。これは、H20～H23年に侵食されていたものが、H23～R元年に回復したということか。これは絶対的な高さということではないということか。
- 整備計画にはデータを載せるが、全て載せるわけにはいかないもので、現状を表しているものを載せている。土砂管理には、このようなデータが重要だという井伊委員の意見でしたが、事務局はデータの活用についてはどのように考えていますか。
- P41の図についてはP37に少し解説されているが、変化の傾向を端的に説明していくような表現に修正してほしい。
- P73の「既存ダム等による洪水調節機能の強化」に記載されている運用の変更に含まれるかもしれないが、たくさんあるダム群の統合運用というようなこと、それを最適化していくというようなことも考えられるので、適切なダム群の統合運用というようなことも記載するとよいと思う。もちろん全面できるということじゃなくて、例えば運用の変更の前に、適切なダム群の統合運用を含めた運用の変更ということを入れることはできないですか。
- P52の「河川空間の利用」で「利用の促進をするための改善が必要である」で終わっているが、これをうたうのであれば、同時に利用者の安全に対する配慮みたいなものも考慮すべきであることを加えたほうが良いと思う。

<関係住民の意見聴取方法について>

- 今後のスケジュールについて、パブリックコメントでどんな意見が出ているのかも参考になると思う。
- 本日の意見と対応について、一覧表等にまとめてもらいたい。

以上

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
井伊 博行 い い ひろゆき	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	
泉 諸人 いずみ もろと	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
加治佐 隆光 かじさ たかみつ	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	
岸上 光克 きしがみ みつよし	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	
清岡 幸子 きよおか ゆきこ	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
高須 英樹 たかす ひでき	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	
瀧野 秀二 たきの しゅうじ	水生生物、植物	熊野自然保護連絡協議会 会長 熊野川 河川水辺の国勢調査アドバイザー	委員長代理
立川 康人 たちかわ やすと	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	
中島 千登世 なかしま ちとせ	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
早坂 豊司 はやさか とよし	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部長	
藤田 正治 ふじた まさはる	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
松尾 直規 まつお なおき	河川水質	中部大学 名誉教授	
森 信人 もり のぶひと	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	
山本 殖生 やまもと しげお	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
横田 浩 よこた ひろし	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	